

**後期計画の策定に向けた地域検討会議（第4回）久慈ブロック 会議録**  
**【久慈ブロック：久慈市、洋野町、野田村、普代村】**

○ 日 時：令和2年9月2日（水）14時00分～16時00分

○ 場 所：久慈地区合同庁舎 6階 大会議室

○ 出席者

① 会議構成員

久慈市関係者（資料「出席者名簿」のとおり）

洋野町関係者（資料「出席者名簿」のとおり）

野田村関係者（資料「出席者名簿」のとおり）

普代村関係者（資料「出席者名簿」のとおり）

② 事務局（県教育委員会）

県北教育事務所（資料「出席者名簿」のとおり）

県教育委員会事務局（資料「出席者名簿」のとおり）

○ 傍聴者：一般5人、報道3人

○ 会議の概要

◆ 議題及び報告事項

1 後期計画策定に向けた意見交換

＜意見交換テーマ＞

（1）後期計画の基本的な考え方等について

（2）後期計画の具体的な取組について

**【県教委】**

- ・ まず、「後期計画の基本的な考え方等」と「後期計画の具体的な取組」について、事務局から説明させていただき、その後、御意見をいただきたい。

**【県教委】**

- ・ 資料 No. 1 「新たな県立高等学校再編計画後期計画（案）の概要」、資料 No. 3 「地域検討会議等で寄せられた意見の反映状況等」に基づき説明。

**【小野寺 野田村商工会会長】**

- ・ これまで開催された地域検討会議で話し合った内容をうまくまとめていただいたと考えている。
- ・ 前期計画で示された久慈東高校と久慈工業高校の統合が一時的ではあるが、延期されたことについて、感謝申し上げます。
- ・ 少子化が進む中で、今後も高校再編の議論は継続していくものと考えているが、新型コロナウイルス感染症の影響で、生活様式も大きく変化していることから、今後、学校教育も大きく変わっていくものと考えている。高校の存在に対する地域の考え方も変えていかなければならない時期である。

**【小田 野田村長】**

- ・ 今回示された後期計画案は、これまでの地域検討会議で出された意見がうまくまとめられているものと考えている。生徒や地域にとって重要な存在である1学級校を一定の入学者がいる間は維持することとした方針には感謝する。野田村では、久慈工業高校の生徒に対し、下宿費用の補助や通学支援を行っているが、野田村としてどこまで踏み込んだ支援をしていくべきか

思案している。今後どのような支援ができるのか県教育委員会と連携しながら考えていきたい。

- ・ 地域の高校を卒業した生徒の地元企業への就職者が少ないことから、地元企業にはインターンシップを積極的に行ってほしいと考えている。期間を1か月程度設定し、実際に働くことに対して興味を持ってもらい、地域に貢献する力や業務を遂行する能力を養う教育が必要と考えている。企業が生徒を受入れた際の負担を解消するため、行政としてもフォローしていきたいと考えている。

#### 【外館 野田村立野田中学校PTA会長】

- ・ 前期計画において統合対象となっている久慈工業高校は、来年度の入学者の状況により統合等の判断をするとのことであるが、統合先である久慈東高校は、多くの系列がある総合学科を設置している。総合学科の系列の一部を久慈工業高校に移管する考えはないのか。

#### 【県教委】

- ・ 久慈地域の統合は、前期計画における取組であり、平成28年に計画したものである。地域の生徒数の減少や久慈工業高校の入学者の減少が見込まれ、学科の維持や授業、部活動等においても学校の運営が難しくなることから、久慈地域の工業の学びを維持しようという考え方で統合を計画したものである。
- ・ 前期計画においても、統合を早急に決定せず生徒確保に向けた地域の取組を見て判断してほしいとの地元市町からの意見を踏まえ、平成30年度入試までの入学者の状況等を確認した上で、統合時期を判断することとしたものであり、地域の取組により一時は入学者の増加が見られたが、近年は入学者の減少が続いている。一方、令和2年度から県教育委員会では、小規模校の活性化を図ることを目的とした高校の魅力化促進事業に取り組むこととしており、その効果や入学者数の推移等を見極める必要があることから、引き続き、統合の対象とするが、統合時期の判断については1年間延期の上、令和3年度における入学者の状況等を踏まえることとしたもの。
- ・ 久慈東高校は久慈農林高校、久慈水産高校、久慈商業高校が統合し、新たに総合学科高校として設置したものである。総合学科の学びの特徴として、1年次には共通の教科を全員が学び、2年次から将来希望する学びの系列を選択し、履修することとなっている。仮に、久慈工業高校に水産や農業の学科を設置する場合、久慈東高校へ総合学科の系列として残すことは難しく、選択できる系列が狭まることとなる。今後も各地域の学科の配置のあり方について検討していきたい。

#### 【城内 (株)ジュークス代表取締役社長】

- ・ 中学校卒業者の推移にある数値の根拠について伺いたい。

#### 【県教委】

- ・ 現在の年齢別人口から記載しているものであり、例えば、10年後の中学校卒業者見込数は、現在の4歳児、5歳児の数を基にしている。

#### 【城内 (株)ジュークス代表取締役社長】

- ・ 中学校卒業予定者数は、高校再編を考える上で重要な数値であり、令和7年度以降についてもこの数値を参考に高校のあり方を考えていく必要があると考える。
- ・ 企業等では、働き方改革や新型コロナウイルスの影響で、ICT機器を活用したリモートでの就業も増加しており、今後、学校教育も大きく変わっていくものと考えている。例えば、校舎を集約し、生徒は自宅でリモートでの授業を受けるといったことも今後、想定していかなければ

ならないのではないかと。ICT機器の整備等について、後期計画案に盛り込まれていることを評価している。

#### 【晴山 地域整備協会会長】

- ・ 建設業に従事しているが、ICT機器の活用は県や国の業務では必須となっている。一方で、事業者が必要な機器を整備することが負担となっており、今後、ICT機器の整備が進む高校において、オープンキャンパス等を活用し、民間企業に対しても知識の教授や機器の活用が進めば、地域における高校の存在意義も上がるのではないかと考える。

#### 【遠藤 久慈市長】

- ・ 前期計画において、令和元年度に久慈高校が1学級減となったが、今後も中学校卒業者の減少が見込まれ、定員を満たさない状況が続いていたことから仕方がないことと捉えている。より高いレベルで能力を伸ばしたいと考え、自らの意志で久慈ブロック外の高校を選択する生徒は少数であり、地域の中で深い学びができる高校の体制作りが必要と考える。
- ・ 今回示された後期計画案は、学級減を中心とした数合わせの色合いが強かった前期計画から立ち止まり、地域の声をしっかり聴いて、学びの選択肢や人づくりを重視した計画案であると捉えている。地域を支える人材の育成も必要であるが、全国や世界で活躍できる人材の育成も重要と考える。
- ・ 指導者が生徒に与える影響は大きいと考えており、今後も優秀な教員を育成し、地域の学校に配置することが必要と考えている。地域の人づくりを意識した計画策定に取り組んでほしいと考える。

#### 【小田 野田村長】

- ・ 久慈市内の高校は、過去に様々な統廃合を繰り返し、現在の配置となっている。久慈高校、久慈東高校及び久慈工業高校のそれぞれを存続させるため、久慈東高校の系列の一部を久慈工業高校へ移管するなど発想の転換が必要である。
- ・ 久慈工業高校の県外生徒の受入れについて、実施する方向で検討していただきたい。葛巻高校の山村留学のような制度の導入は難しいと考えるが、村としても受け入れた生徒を支援していきたいと考えている。

#### 【県教委】

- ・ 県外生徒の受入れについて、葛巻高校の山村留学制度は、町が寮を整備し、PR等も町が中心となり取り組んでいる。今年度の山村留学には定員を上回る志願者があり、県内での成功例と考えている。
- ・ 来年度については、新たに2校が県外受入れを実施する予定であり、現在、町村において受け入れ体制を整備しているところである。各自治体等に情報提供しながら広めていきたいと考えている。

#### 【坂久保 洋野町産業関係者代表（工業）】

- ・ 洋野町には種市高校と大野高校の2校があり、それぞれが特色を持った高校となっている。大野高校は、地域の活性化にとって欠かせない高校と考えるが、令和2年度の入学者は20名を下回っており、募集停止基準に該当することを懸念している。
- ・ 地元の大野中学校と連携し、生徒の進路希望調査を実施したところ、およそ4割から5割の生徒が大野高校への進学を希望している。大野高校は、地元の半数の生徒が進学する高校であり、基準を適用する際は、生徒の状況を考慮いただきたい。地域としても魅力のある高校づく

りを目指していきたいと考えている。

#### 【県教委】

- ・ 大野高校の令和2年度の入学者数は17名であり、県教育委員会としても推計を下回ったことを懸念している。地理的な要因により、久慈市内や八戸市内の高校も選択肢となることも理由の1つと考えている。
- ・ 県教育委員会では、今年度から高校の魅力化促進事業に取り組んでおり、高校が町と連携し、地域の中학생や保護者に大野高校の魅力をわかりやすく伝え、地元の生徒が多く入学する高校にしていきたいと考えている。

#### 【向井 久慈市漁業協同組合参事】

- ・ 地域検討会議の会議構成員には、漁業関係者も多く、地域の重要な産業であることを改めて認識している。近年、漁獲量の減少が続く中、新型コロナウイルスの影響もあり水産業は大きな打撃を受けている。例年、久慈東高校の海洋科学系列（水産）と連携し、人材の確保を進めているが、今後も継続して採用できるか不安を抱えている。
- ・ 第1次産業である漁業は、ICT機器の導入も遅れている。今後は、ICT機器を活用した販売拡大戦略を導入するなど、水産業全体のあり方を考え、地域の産業として盛り返していきたいと考えている。

#### 【関向 洋野町立大野中学校PTA会長】

- ・ 今年度の大野中学校3年生は37名であり、進路希望調査を実施した結果、大野高校への進学希望者は17名、およそ5割となっている。県教育委員会では、平成30年度に中学生的進路希望に関するアンケートを実施したとあるが、その結果についてお示しいたきたい。
- ・ 高校を存続させるために久慈東高校の海洋科学系列（水産）を種市高校に集約することや、環境緑化系列（農業）を大野高校に集約するなどの配置の考え方もあるのではないかと。

#### 【県教委】

- ・ 中學生向けアンケート調査は、平成30年度の中学3年生を対象に実施したものである。具体的な高校名をあげて調査をしたものではないが、久慈地区アンケート調査結果では、希望する学科について、普通科を希望する生徒が53.1%、総合学科が19.2%、工業学科が7.4%となっており、主な理由として、進学や就職に有利であるという理由が40.8%となっている。また、進学したい学校が学区内にあるかという質問に対しては、70.0%の生徒があると回答している。通学についても、徒歩や自転車で通学可能な範囲が32.8%、バスや列車で通学可能な範囲までが43.3%であり、通学時間についても30分以内が37.7%、1時間以内が42.6%となっている。
- ・ 学科等の集約について、水産や農業といった系列の集約も考えられるが、地域間のバランスや生徒の希望とのバランスを考慮しながら学校等の配置を考えていかなければならない。後期計画後における、さらに、次の計画策定に向け研究していきたい。

#### 【後 久慈市教育委員会教育長】

- ・ 地域検討会議で寄せられた意見を真摯に受け止め、後期計画案に反映させたことに敬意を表したい。
- ・ 2つの基本的な考え方である「生徒の希望する進路の実現」と「地域や地域産業を担う人づくり」、また、「一定の入学者のいる1学級校を維持」という方針を示していただいたことには感謝申し上げる。今後も、中学校卒業予定者の減少が見込まれ、多くの高校が定員を満たせないことは容易に想像ができる。大学進学や医師、弁護士など専門知識を身に付けたいと考えて

いる生徒もいる中で、1学級40人という定員にこだわるのであれば、今後、高校の規模を維持していくことは難しいのではないかと。

- ・ これからの時代はICTとともに、様々な分野の産業に外国人が従事するものと考えられることから、英語の習得が必須となる時代である。ICT機器の整備環境や英語教育に特化するなど特色を打ち出し、地域とともに発信することができれば、久慈地域の高校を希望する生徒が増加するのではないかと。地元の生徒を地元で教育する環境づくりに、県教育委員会の協力をお願いしたい。

#### 【小原 野田村教育委員会教育長】

- ・ どの地域においても、仮に小規模となった場合も地域の高校を存続させてほしいといった意見があるが、存続する高校をどのように運営していくかが重要と考える。今後も少子化は進行し、現在の1学級40人の定員では学級数を維持することも難しくなることから、少人数学級の導入についても検討する時期と考える。
- ・ 小規模校であっても、教育の機会均等のためオンライン授業等の導入が1つの手段と考えられる。地域の中で深い学びができる環境作りが必要と考える。
- ・ 小中学校においても、特別な支援を要する児童生徒が増加している。その中には、高校への進学を希望する生徒もいるが、高校生活を3年間継続することが難しい面もある。有効な解決手段としてオンライン授業の導入など対応策を検討することが必要と考える。

#### 【三船 普代村教育委員会教育長】

- ・ 前期計画では望ましい学校規模を1学年4学級から6学級とし、教育の質を維持するには2学級以上の規模が必要としているが、少子化が進む状況においては、現実的には難しいと考える。現在の1学級40人定員の見直しについても視野に入れ、考えるべきである。
- ・ 入学者が2年連続して20人以下となれば、募集停止、統合を検討するということであるが、地域や生徒の希望を考えれば、この基準には疑問がある。1学級40人という定員が適正な数であるのかを検証した上で、今後の高校の在り方を考えていただきたい。

#### 【県教委】

- ・ 望ましい学校規模や学級数については、平成28年3月に示した10年間の計画の考え方で、1つの基準としてお示ししたものである。各地域における地方創生への取組や地域検討会議における小規模校の存続を望む声があり、後期計画では1学級校についても存続させることとしたもの。
- ・ 定員については、高校標準法に基づき、教員の人件費が財政措置されていることから、県独自で1学級の定員を35人とした場合、国からの財政措置が減額され、教員数も減ることとなり、教育の質の確保が難しくなる。
- ・ 多くの小規模校では、1つの学級をコース別に編成し授業を行っており、不足する教員については、加配措置により補っている。引き続き定数の改善については国への改善要望を継続し、生徒の進路希望に応えられる体制を整えていきたいと考えている。

#### 【吹切 洋野町産業関係者代表】

- ・ 小規模校が存続することはありがたいことであるが、いつまで存続させることが可能なのかを考えていかなければならない。生徒数の減少により小規模のまま取り残された高校が、地域や学校間で生徒の奪い合いにならないよう先を見据えた検討が必要と考える。
- ・ 種市地区の中学校では、生徒数の減少により、授業や、部活動等の充実を考え、統合を決断した。大野高校と種市高校についても、早期に統合した方が有利な面があると考えており、地

域と話し合いながら進めていただきたい。

#### 【柗屋 普代村長】

- ・ 地域検討会議の意見が反映された計画案と捉えている。普代村には高校が無く、野田村や久慈市内に通学する生徒が多い中で、前期計画の久慈東高校と久慈工業高校の統合が延期になったことは、生徒の高校選択の機会を維持することとなりありがたいと考えている。
- ・ 教育の質の維持についても、引き続き努めていかなければならないと考えており、生徒数の減少により高校の小規模化が進む中であっても教育の質を維持する取組を進めてほしい。

#### 【林 洋野町教育委員会教育長】

- ・ 地域検討会議での意見集約から後期計画案の検討、意見の反映状況に対し、感謝申し上げる。東日本大震災津波からまもなく 10 年が経過しようとする中で県北地域は持続可能な街づくりを進めてきた。洋野町においても海洋教育を「洋野学」と称し、小中学校、高校との連携により魅力づくりに取り組んできた。
- ・ 後期計画案における「地域の産業を担う人づくり」という考え方や一定の入学者がいるうちは 1 学級校を維持する考え方を大変評価している。種市高校においても、今後加速する社会のグローバル化や AI 技術の発達など将来に見合う教育の質の充実についても検討していかなければならないと考えている。
- ・ 種市高校の海洋開発科は県外からの生徒受入れを行っているが、種市高校の生徒数の減少が続いていることから、町としても積極的に支援しようと考えている。高校も情報発信等 PR に努めているが、県教育委員会の支援もお願いしたい。
- ・ 大野高校の今年度の入学者は 17 人であり、来年度の入学者の確保については、高校全体で積極的に取り組んでいる。町としても支援を模索しているところであり、町全体の課題として取り組んでいきたいと考えている。

#### 【菊地 久慈地区小中学校長会（久慈市立久慈中学校長）】

- ・ 地域検討会議での意見を大切にし、立てられた後期計画案と考える。これまでも久慈地域の学びの選択肢の確保をお願いしてきたが、1 学級校の存続など地域の学校を重要視し計画案をまとめていただいたことに感謝申し上げる。
- ・ 久慈地域の小中学校では、東日本大震災津波や台風被害を経験し、復興教育と兼ねて、地域を担う人材の育成についても取り組んできた。高校においても丁寧に地域の人材育成に取り組んでおり、今後も連携を図りながら地域の人材を育成していきたいと考えている。
- ・ 生徒や保護者の意向を尊重することが重要と考えるが、前期計画で延期となっている久慈地区の統合は後期計画においても引き継がれるのか取り扱いを伺いたい。

#### 【県教委】

- ・ 2 年連続 20 人以下の基準は普通科に適用される基準である。専門学科高校は普通教科のほか、専門教科の教員の配置が必要なため、1 学級とすることは考えていない。
- ・ 久慈地区の統合は前期計画に位置付けられているものであり、生徒数の減少が見込まれる中で、久慈地域の工業の学びを確保するために統合を計画したもの。野田村が地元高校への支援に取り組んでおり、入学者数に増加も見られたことから統合を延期し、令和 2 年度までの入学者の状況等を確認した上で、統合時期を判断することとしたものであるが、統合時期等の判断については、1 年延期の上、令和 3 年度における入学者の状況等を踏まえることとするもの。

#### 【県教委】

- ・ これまで開催した3回の地域検討会議の意見を踏まえ計画案を策定したものであり、概ね評価いただいたものと受け止めている。
- ・ 地域での高校の役割や重要性を考え、1学級校についても後期計画期間中は存続させることとしたもの。単に存続させることだけではなく、高校の魅力化にも取り組む必要があり、今年度から高校の魅力化促進事業を立ち上げたもの。取組には地域からの支援が必要であり、協力をお願いしたい。
- ・ 高校は集団生活において社会性や協調性を身に付ける場であり、教育の質を維持するために現実的な基準として1学年を20人としているもの。
- ・ 久慈地区の統合は、前期計画で示したものであり、統合時期等の判断を延期しているものであるが、来年度に判断することとなる。
- ・ 本日いただいた御意見や御提言を踏まえながら本年度内を目途に後期計画の策定を進めて参りたい。

## 後期計画の策定に向けた地域検討会議(第4回)【久慈ブロック】

## 出席者名簿

No	市町村等	氏名	所属・役職等	備考
1	久慈市	遠藤 譲一	久慈市長	
2		向井 啓益	久慈市漁業協同組合 参事	
3		城内 治	㈱ジュークス 代表取締役社長	
4		後 忠美	久慈市教育委員会 教育長	
5	洋野町	野田 清旨	洋野町 副町長	代理
6		吹切 守	洋野町産業関係者代表(漁業)	
7		坂久保 了	洋野町産業関係者代表(工業)	
8		関向 恒	洋野町立大野中学校PTA 会長	
9		林 剛敏	洋野町教育委員会 教育長	
10	野田村	小田 祐士	野田村長	
11		晴山 克身	地域整備協会 会長	
12		小野寺 健二	野田村商工会 会長	
13		外館 尚紀	野田村立野田中学校PTA 会長	
14		小原 正弘	野田村教育委員会 教育長	
15	普代村	証屋 伸夫	普代村長	
16		正路 正敏	普代村立普代中学校PTA 会長	
17		三船 雄三	普代村教育委員会 教育長	
18	地区中学校長代表	菊地 理	久慈地区小中学校長会(久慈市立久慈中学校長)	

## 【オブザーバー】

No		氏名	所属・役職等	備考
19	県立高等学校	上 柿 剛	久慈高等学校長	
20		高橋 克壽	久慈東高等学校長	
21		日當 仁己	久慈工業高等学校長	
22		松場 喜美夫	種市高等学校長	
23		中野 達博	大野高等学校長	

## 【県教育委員会】

No		氏名	所属・役職等	備考
24	県教育委員会 事務局等	菅野 広紀	県北教育事務所長	
25		秋山 武	県北教育事務所主幹兼企画総務課長	
26		村田 賢	県北教育事務所教務課長	
27		黒澤 和則	県北教育事務所教務課主任指導主事	
28		岡田 政志	県北教育事務所教務課指導主事	
29		梅津 久仁宏	教育次長	
30		木村 克則	学校調整課首席指導主事兼総括課長	
31		中川 覚敬	学校教育課総括課長	
32		須川 和紀	学校教育課首席指導主事兼高校教育課長	
33		森田 竜平	学校調整課高校改革課長	
34		谷地 信治	学校調整課高校改革担当主任指導主事	
35		市丸 成彦	学校調整課高校改革担当主任指導主事	
36		小野寺 一浩	学校調整課高校改革担当主任指導主事	
37		女鹿 光介	学校調整課高校改革担当主査	